

# 日本行動分析学会ニューズレター J - A B A ニュース

2005年 夏号 No.39 (7月22日発行)

発行 日本行動分析学会 理事長 中野良顯

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学文学部心理学科学習心理学研究室内

FAX : 03-3238-3658 (日本行動分析学会事務局と明記) URL : <http://www.j-aba.jp>

日本行動分析学会2005年度事業計画	中野良顯
2004年度決算(案)2005年度予算(案)	坂上貴之
第3回学会賞(実践賞)について	清水直治
編集委員会より	真邊一近
行動分析学会第23回年次大会準備委員会より	森山哲美
「行動分析士」資格化に関するアンケート調査について	藤田継道
入門講座のご案内	事務局
研究会のご案内	中部行動分析学談話会
自著を語る・新刊書案内	小野浩一・伊藤正人・島宗理
学会情報/常任委員会ヘッドライン	中野良顯
学会情報/会員情報	事務局
編集後記	藤 健一

## 日本行動分析学会2005年度事業計画

理事長 中野 良顯

今年度計画している事業は次のとおりです。最終案は2005年7月30日午後に常磐大学で開催される会務総会に提出いたします。会員の皆様による活発なご審議をお願い申し上げます。

**第23回年次大会の開催** 皆様にはすでに『日本行動分析学会第23年次大会発表論文集』がお手元に届いていることと存じます。

今大会は森山哲美実行委員長のもとでホテルレイクビュー水戸(7月29日)および常磐大学(7月30日、31日)で3日間にわたって開催されます。

ヒューワード・オハイオ州立大学教授、ラッタル・ウエストバージニア大学教授ご夫妻をお招きしての自主公開講座と大会企画シンポジウ

ム、ワークショップ、自主企画シンポジウム、大会実行委員会企画シンポジウム、口頭発表、そしてポスター発表と魅力的なプレゼンテーションが、余裕をもった日程で計画されております。多数の会員のご参加をお待ち申し上げます(森山哲美実行委員長)。

なお、年次大会に先立って、ヒューワード教授を中心とするワークショップが東京の高田馬場で7月28日に開催されます。明治安田こころの健康財団夏期講座『確かな学力と豊かな人間性を育てる授業力』の二日目のプログラムです(問合せ先:03-3986-7021)。アメリカの特別支援教育で使われている効果的な行動分析の技法の実際についての映像によるプレゼンテーショ

ンと、特別支援教育をめぐる日米シンポジウムが行われます。日本行動分析学会はこの夏期講座の後援団体となっております。年次大会と合わせてご参加をお待ち申し上げます。

**機関誌の発行** 『行動分析学研究』第 19 巻を年度の初めに発行いたしました。今年度中に第 20 巻 1、2 号の発行を予定しております（真邊一近委員長）。なお応用分野からの機関誌特集号を企画するための調査の実施も予定しております（藤田継道委員長補佐）。

**ニュースレターの発行** 第 39 号、40 号、41 号、42 号の 4 回を発行予定しております（藤健一委員長）。

**出版企画** 普及書（啓蒙書）『行動分析学』の出版を企画しております。現在、目次と執筆者と出版社を決定する段階にきております（藤田継道普及書刊行委員会委員長）。

**研究活性化** 若手育成・論文執筆支援、SIG 設置、基礎応用研究ブリッジ推進のための活動を前年度に引き続き推進いたします（佐藤方哉委員長）。

**教育システム整備** 学会ホームページ「行動分析が学べる日本の大学」の拡充、国内の大学院レベルの行動分析カリキュラムについての調査、欧米の大学院の行動分析カリキュラム・教材に関する資料収集を前年度に引き続き推進いたします（藤原義博委員長）。

**会員支援拡充普及** 750 人を目標に会員拡充に努め、入会案内の配布による勧誘を行い、また他の委員会と協力して総合的な会員支援活動を展開するとともに、学会賞を充実させるための活動を推進致します（清水直治委員長）。

**国際交流** 2004 年度の J-ABA 事業報告書と 2005 年度事業計画書を ABA に提出し、ABA シカゴ大会エキスポにおける J-ABA の活動の紹介と国際交流関連委員会への出席を行い、必要に応じて J-ABA 紹介記事を寄稿し、J-ABA 年次大会において ABA の案内を行い、第 3 回 ABA 国際会

議北京大会（2005 年 11 月 25-27 日）の運営に協力するとともに、学生会員 ABA 派遣事業とその他の関連活動を推進致します（杉山尚子委員長）

**倫理** 機関誌の倫理特集号の編集を終えて、倫理綱領の改定原案を策定するために委員会内部で協議を進めております（中島定彦委員長）。

**公開講座** 昨年度制定したガイドラインに基づいて自主公開講座を募集致します。今年度はすでに 3 件の申し込みが完了していますが、まだ予算の余裕がありますので引き続き応募をお待ちしています（小野浩一委員長）。なお 2005 年 8 月 17 日(火)に学会主催の研修会「『特別支援教育』を支援する：その具体的な方法」を神戸で開催する計画を進めております（藤田継道常任理事）。

**行動分析士の資格問題への取り組み** 心理専門職の国資格立法化や、日本心理学諸学会連合の検定資格の実施計画などの動向をにらみながら、行動分析士の資格を創設すべきか否かについて会員の皆様のご意見を聴取するためのアンケート調査を行う予定です（藤田継道常任理事）。

**役員改選** 今年 9 月に新理事の選挙を実施いたします。そのための会員名簿の作成と、選挙関連業務を進めております。選挙管理委員長を小野浩一常任理事にお願いいたしました（坂上貴之事務局長）。

以上が 2005 年度の事業計画の概要であります。今期理事会はこの 3 年間、「学会としては初心に返って、研究の振興と、教育の充実を中心にすえて、とくに若い人たちが活発に活動できるように運営する」ことを目指して努力してまいりました。今年はその完成年度であり、原点に立ち返って一層努力する所存でございます。会員の皆様からの積極的なご支援とご協力、そしてご鞭撻を何とぞよろしくお願い申し上げます。

## 2004年度決算(案) 2005年度予算(案)

担当常任理事 坂上 貴之

## 2004年度決算(案)

## 一般会計

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算	科目	予算額	決算
前年度繰越金	3,805,527	3,805,527	事務局関連費	894,000	594,822
今年度会費	3,705,900	3,610,000	事務局員給料	360,000	360,000
正会員			消耗品費	150,000	37,268
一般	2,963,100	3,080,000	通信費	200,000	69,374
学生会員	380,800	492,000	会費納入案内郵送費	50,000	52,680
夫婦会員	32,000	20,000	事務局アルバイト代	134,000	75,500
購読会員	320,000	8,000	刊行物関連費	3,012,000	1,359,365
賛助会員	10,000	10,000	学会誌印刷費	2,250,000	888,531
次年度会費	1,600,000	1,825,500	学会誌郵送費	170,000	52,500
正会員			編集作業費	150,000	71,718
一般		1,589,000	英文校閲費	160,000	80,000
学生会員		208,500	ニューズレター印刷費	50,000	13,356
夫婦会員		12,000	ニューズレター郵送費	216,000	222,460
購読会員		16,000	ニューズレター発送アルバイト代	16,000	30,800
過年度会費	167,500	562,000	学会事業補助費	670,000	400,877
正会員			公開講座補助費	300,000	50,000
一般	132,300	284,000	2005年度大会補助費	200,000	200,000
学生会員	19,200	20,000	学会賞賞金	100,000	100,000
夫婦会員	8,000	0	学会賞関連郵送費	20,000	20,710
購読会員	8,000	258,000	学会賞関連印刷費	50,000	30,167
学会誌販売	50,000	118,260	会議費	420,000	317,555
その他		536,937	年次大会会議費	30,000	32,747
抜き刷り代		40,000	その他の会議費	80,000	54,448
コピーサービス		1,470	常任理事旅費	300,000	223,260
抄録許諾料		7,655	事務局年次大会出張費	10,000	7,100
著作権使用料		33,042	その他	129,000	146,600
利息		3	優良納入者会費払い戻し	29,000	29,000
公開講座寄付金		448,427	機関誌保管料	60,000	52,500
2003年度年次大会寄付		6,340	日本心理学諸学会連合会費	30,000	30,000
			日本学術会議心研連会費	10,000	10,000
			ホームページ管理料		25,100
			雑費	30,000	5,255
			予備費	2,573,927	0
			次年度繰越金(次年度会費分)	1,600,000	1,825,500
			次年度繰越金		5,808,250
合計	9,328,927	10,458,224	合計	9,328,927	10,458,224

## 特別会計(学生会員ABA派遣基金)

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算	科目	予算額	決算
前年度繰越金	359,418	359,418	学生会員ABA派遣費	150,000	150,000
			予備費	209,418	0
			次年度繰越金		209,418
合計	359,418	359,418	合計	359,418	359,418

## 2005年度予算(案)

## 一般会計

収入の部		支出の部	
科目	予算額	科目	予算額
前年度繰越金	5,854,241	事務局関連費	696,000
今年度会費	3,972,000	事務局員給料	360,000
正会員		消耗品費	100,000
一般	3,094,000	通信費	80,000
学生会員	510,000	会費納入案内郵送費	56,000
夫婦会員	32,000	事務局アルバイト代	100,000
購読会員	336,000	刊行物関連費	4,533,000
賛助会員	0	学会誌印刷費	3,600,000
次年度会費	1,600,000	学会誌郵送費	238,000
過年度会費	571,300	編集作業費	120,000
正会員		英文校閲費	160,000
一般	195,300	ニューズレター印刷費	50,000
学生会員	36,000	ニューズレター郵送費	315,000
夫婦会員	12,000	ニューズレター発送アルバイト代	50,000
購読会員	328,000	学会事業補助費	670,000
学会誌販売	50,000	公開講座補助費	300,000
		2005年度大会補助費	200,000
		学会賞賞金	100,000
		学会賞関連郵送費	20,000
		学会賞関連印刷費	50,000
		会議費	390,000
		年次大会会議費	30,000
		その他の会議費	30,000
		常任理事旅費	300,000
		事務局年次大会出張費	30,000
		電子システム運営費	171,000
		サーバレンタル費	51,000
		電子システム管理費	120,000
		事務局移転関連費	60,000
		移転郵送費	60,000
		名簿・選挙関連費	434,000
		選挙関連通信費	112,000
		住所等照会通信費	112,000
		名簿印刷費	154,000
		名簿郵送費	56,000
		その他	129,000
		優良納入者会費払い戻し	29,000
		機関誌保管料	52,500
		日本心理学諸学会連合会費	37,500
		日本学術会議心研連会費	10,000
		雑費	30,000
		予備費	3,334,541
		次年度繰越金(次年度会費分)	1,600,000
合計	12,047,541	合計	12,047,541

## 特別会計(学生会員ABA派遣基金)

収入の部		支出の部	
科目	予算額	科目	予算額
前年度繰越金	209,418	学生会員ABA派遣費	150,000
		予備費	59,418
合計	209,418	合計	209,418

決算報告に示したように、2004年度決算は、予算よりも100万円ほど大きな額で収入と支出がバランスした。その大きな理由は寄付金収入と過年度会費を中心とした会費収入である。一方、支出については、まだ学会誌の刊行が追いつかず、150万円強の刊行物関連費が支出できなかった。

新しい予算案では、前年度の増収に対応して、新たに開始された日本行動分析学会用の独自ア

ドレスの獲得とその運用事業を一層推進するための「電子システム運営」予算を組んだ。また本年度は役員選挙の年度に当たり、その遂行に必要な名簿印刷や選挙関係費用の予算を組んでいる。この予算案は7月開催の会員総会にて審議される予定である。会員諸氏におかれては、健全な学会運営のために、引き続き会費納入等のご援助をお願い申し上げたい。

## 第3回学会賞(実践賞)について

担当常任理事 清水 直治

日本行動分析学会の第3回(2005年度)学会賞(実践賞)が、決定いたしました。

学会賞(実践賞)は、「現代社会における課題を解決するために、行動分析学を応用して顕著な実績をあげ、会員の推薦を受けた実践のうち1個人または1組織に与えられる」とされています。今年度、第3回(2005年度)学会賞(実践賞)に推薦された候補者は1件でしたが、規程により選出された、理事から6名、学生会員から3名、それ以外の一般会員から6名の合計15名の選考委員による投票が行われました。その結果、有効投票総数15票のすべてが、山崎裕司氏(高知リハビリテーション学院理学療法科講師)の「理学療法の分野への応用行動分析学の適用と普及」に対して、学会賞(実践賞)と

して適当であると選考しています。選考理由をまとめますと、「山崎氏は、理学療法の領域にわが国で初めて応用行動分析を導入し、その実践と研究、教育のすべての分野で行動分析的アプローチを発展させ、先駆的な業績をあげている。またその成果は、リハビリテーション専門誌に数多く掲載され、行動分析の普及にも貢献した」ということでした。

なお、今年度の学会賞(論文賞)については、現在選考作業を継続中です。

第3回(2005年度)学会賞の授賞式および受賞講演は、7月29日(金)から31日(日)まで常盤大学で開催される日本行動分析学会第23回年次大会の会期2日目に行われる予定です。

## 編集委員会より

行動分析学研究 編集委員長 眞邊 一近

今年度は、行動分析学研究編集委員の任期の最終期にあたります。これまで、2年間で4号の出版を手がけてきましたが、依然として、出版の遅れは取り戻せていません。是が非でも今年度中に2号を出版し、年2回の定期的な発行

が可能な状態で次の編集委員会に引き継ぎたいと祈念しています。これを達成するために、会員の皆様のご投稿をお待ちしています。是非ともよろしくご依頼申し上げます。

行動分析学研究の査読は、電子メールを用い

た通信と、査読者の方々の迅速なご対応により、比較的早く、結果を投稿された方に知らせることが出来ていると思います。今後も迅速な査読を促進していきたいと考えています。査読に関しての次の課題として、査読の公平、客観化のために、査読のための書式および査読マニュアルの作成を行いたいと考えています。例えば、査読の書式としてアメリカの雑誌などでは、最初に、投稿論文の簡単な内容について、査読者が理解した要約を書き、その後に掲載の有無についての根拠と結論を述べ、具体的な指摘、コメント、疑問、細かな点に関する誤りの指摘などという順に書いていくのが一般的なようです。査読者の理解に基づく要約を書くことにより、査読者の理解が著者の意図した内容と一致しているかどうか分かります。もし、一致していなければ、著者はその点を説明し、また、論文の記述に不十分な点はないか検討することが出来ます。

現在の行動分析学研究査読用のシートには、  
1. 本誌の読者に対して有用か。2. 研究のオリジナリティはあるか。3. データは結論を支持しているか。4. 本誌にふさわしい論文か。5. 説明がわかりやすいか。6. 倫理規定に関わる「同意書」についての記述があるか。あるいは被験体への倫理的配慮についての記述はあるか。の6点について、十分、中程度、不十分の三段階評価を行っていますので、投稿される場合は、上記の基準に照らして準備してください。このチェック項目の後に上記の書式に基づいた査読結果を追記するというのが、現在検討している査読のための書式案です。

査読のマニュアルは、「査読の心得」に関することが主たる内容になります。査読では何を見るべきなのか？というような基本的な事柄から、コメントを書くときの文体はどのような文体がよいのか？など、投稿者との円滑なコミュニケーションを行うための方法についてまで加えたいと考えています。査読の仕方、コメントの書き方については、会員の皆様、いろいろなご意

見をお持ちだと思います。皆様のご提言をお待ちしています。journal.editor@j-aba.jpまでご意見をお寄せください。

お知らせしました文献の書式の改訂について、皆様からのご意見をお待ちした結果、ご異論が無い様でしたので、以下のようにアメリカ心理学会（APA）のAPAマニュアル（<http://www.apastyle.org/>参照）に準拠した引用文献の書式に20巻より改訂します。今後、行動分析学研究にご投稿の際は、以下の書式に従って論文をご準備ください。

望月昭. (1995). ノーマライゼーションと行動分析:「正の強化」を手段から目的へ. 行動分析学研究, 【8】, 4-11.

小笠原恵・氏森英亜. (1990). 精神遅滞事例における要求言語の出現頻度を高める条件の検討-機会利用型指導法およびマンド・モデルを通して-. 行動分析学研究, 【5】(1), 45-56.

Delprato, D. J. (2002). Countercontrol in behavior analysis. 【Behavior Analyst, 25】, 191-200.

8 ポールド体  
【8】 イタリック体

氏名、年号、タイトルの区切りには、ピリオド(.)をつけ、年号は括弧()でくくるという点が主な違いになります。

例) 氏名 ピリオド (年) ピリオド 論文タイトル ピリオド 雑誌名, 巻(号), ページ数.

もし、この改訂について何らかのお考えをお持ちの方がおられましたら、下記の e-mail address までご意見をお寄せください。お待ちしております。

(投稿を予定されている会員の皆様へのお願い)

論文投稿規程には、電子ファイル(Text ファイルあるいはWord ファイル)の提出を要件に加えていませんが、迅速な査読を行うため、ご投稿いただく場合は、印刷された論文にFDあるい

は CD に記録された電子ファイルを添えてください。また、可能なら e-mail でも添付ファイルとしてお送りください。もし難しい場合は、従来通り印刷した原稿をお送りください。編集部で電子化します。

## 行動分析学会第23回年次大会準備委員会より

第23回年次大会実行委員会委員長 森山 哲美

本格的な梅雨を迎えていながら、初夏というより盛夏を思わせるような日が続いておりますが、学会員の方々にはますますご健勝のことと思います。さて、常磐大学の大会実行委員一同、皆様に有意義な3日間(7月29日、30日、31日)を茨城・水戸の地で送っていただけるように、ただいま準備を進めております。6月27日にWebページの更新を行い、大会プログラムを公開いたしました。どうぞご覧下さい。

このたびの第23回年次大会では、学会理事、そして会員の方々のご理解とお力添えを得て、Lattal ご夫妻、そして、Heward 博士のそれぞれの御講演、また理事長の中野 良顯 先生が御企画なさった自閉症児の早期支援プロジェクトに関わるワークショップ、加藤哲文先生御企画の教育現場に活かす行動コンサルテーションの問題についてのシンポジウムが開催されます。Lattal 先生ご夫妻の御講演は、大阪教育大学の大河内浩人先生のお骨折りによって企画され、鳴門教育大学の島宗理先生、太成学院大学の吉野俊彦先生がそれぞれ通訳をなさいます。Heward 先生の御講演は、中野理事長が通訳をなさいます。さらに、常磐大学には被害者学の専門家が数名おられることを受けて、本学大会実行委員である伊田政司氏の企画によって、広く司法の分野における行動分析学の可能性を模索するシンポジウムを企画しました。これらの講座やシンポジウムには、学会員のみならず一般の方々にもご参加いただけるように企画いたしました。ただし、Lattal 博士の御講演は、学会

員のみが対象となります。3人の海外研究者の御講演はいずれも、学会から自主公開講座として援助を受けます。この場をお借りしてお礼を申し上げます。また、口頭発表が16件、ポスター発表が60件と多くの方々の研究発表を予定されており、大会が盛り上がるのが期待されます。このたびの第23回年次大会から、これまでの2日間から3日間に会期になることで、すべての会員の方々がゆとりをもって大会に御参加いただけるのではないかと考えております。現在、論文集の印刷を手がけており、7月上旬には、皆様のもとにお届けすることができると考えております。

さて、水戸という言葉聞いて、皆様はなにを連想なさるでしょうか? 納豆? 梅? 偕楽園? そして、水戸黄門? そのぐらいでしょうか? 実は、水戸近在には多くの観光スポットがあります。この度、JTB の協力を得て、論文集送付の際に、そのような観光スポットの案内書も同封いたしますので、ぜひいろいろな名所にもお出かけ下さい。水戸は、水戸学発祥の地として文化の盛んな場所です。関東近在で、県庁所在地でありながら人口が20万を少し超える程度の小都市ではありますが、落ち着いたたたずまいをご覧ください。茨城で学会が行われる場合、筑波でももろの学会が開催されることが多く、筑波よりも北にある水戸を鄙びた土地とイメージされる方が多いかもしれません。実際にお越し頂いて、その実態をご覧ください。ただければと思います。

次に、開催校である常磐大学について、若干の案内をさせていただきます。常磐大学は、JR水戸駅からバスで20-30分の地にあり、開学22年の大学です。現在、人間科学部心理教育学科は、基礎・応用心理学、カウンセリング、教育学の3コースに分かれて学生指導が行われております。心理学研究室の実験施設には、動物心理学実験棟をはじめ、いくつかの実験実習室があり、研究教育環境としては申し分ないと考えております。大会にお出かけの際には、そのような実験実習室もご見学いただければと思います。

最後に、大会実行委員を紹介します。委員は総勢11名で、事務局長の島田茂樹助教授、伊田政司教授、佐藤隆弘君、松井進君、林昌宏君、竹中大介君、伊藤周平君、久保田健君、大澤亮君、小林裕美子助手、そして、委員長の森山哲

美です。大会当日は、さらに数名の学部学生や大学院生が業務に関わる予定です。これらのメンバーで大会を盛り上げ、会員皆様にご満悦いただけるよう努力するつもりです。しかし、全員がこのような業務に不慣れなため、皆様にご迷惑をおかけするようなことが多々あるかもしれません。そのような時は、なにとぞご指導賜りますようお願い申し上げます。なお、このたびの大会開催準備に当たって、第22回年次大会開催校であった帝京大学の望月要先生から大変貴重なご助言、ご意見をうかがうことができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。7月29日(金)、30日(土)、31日(日)はもうすぐです。万全の準備をして、実行委員一同、皆様のご来訪をお待ち申し上げ、私の挨拶といたします。

## 「行動分析士」資格化に関するアンケート調査について

担当常任理事 藤田 継道

来る7月28 - 30日に開催される行動分析学会期間中に行動分析士の資格化に関するアン

ケート調査を実施する予定です。学会に参加している皆様、アンケート調査にご協力ください。

## 入門講座のご案内

事務局

日本行動分析学会は、下記講座を後援することとなりましたので、会員の皆様にもお知らせいたします。奮ってご参加ください。

明治安田こころの健康財団 外国講師招聘・スクールカウンセリング入門講座

「確かな学力と豊かな人間性を伸ばす授業力」  
期日：2005年7月27日(水)~28日(木)  
定員：150名 (申し込み先着順で、満員になり次第締め切ります)

受講料：12,000円

申し込み：<http://www.mykokoro.jp> のホームページ(研修事業2005年度)からできます。

会場：明治安田こころの健康財団  
7F講義室

(JR山手線・西武新宿線・地下鉄東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車約10分)

主催：財団法人 明治安田こころの健康財団  
(旧 安田生命社会事業団)

後 援 : 日本教育カウンセラー協会、  
日本行動分析学会

内 容 : アメリカのカウンセリングはいまサービス・モデルからプログラム・モデルへと劇的に変貌しました。学校カウンセラーの最も重要な仕事は「ガイダンス・カリキュラム」(確かな学力、将来への確かな見通し、豊かな人間性を育てる授業)になりました。この講座ではアメリカのカウンセリングの最新の動向と4大業務を詳しく解説します。また「ガイダンス・カリキュラム」に焦点を当てて、日米の有力な授業のイノベーションを紹介します。いま多くの先生方が「気がかりな子」の指導の問題に悩んでいます。そういう先生方を確実に支援できるコーディネーターとしての教育カウンセラーが求められています。今回はとくにアメリカの特別支援教育のリーダー、ウィリアム・ヒューワード・オハイオ州立大学教授にご登壇いただき、通常学級で使える授業技術をたっぷりお話いただきます。もちろん通訳つきですので、普通教育から特別支援教育に至るまで、幅広い教育実践家にご参加をお勧めします。(上智大学総合人間科学部教授 中野 良顯)

#### プログラムと講師

7月27日(水) 13:10~17:20

講義1: プログラム・モデルとカウンセラーの4つの仕事

中野 良顯(上智大学総合人間科学部教授)

講義2: 人間形成のためのカリキュラム

牧野 昌美(上智大学大学院)

鈴木 淳子(白井市立大山口小学校教諭)

7月28日(木) 10:00~17:00

講義3: 気がかりな子の学力を伸ばす5つの授業技法1

W・ヒューワード(オハイオ州立大学教授)

中野 良顯(通訳)

講義4: 気がかりな子の学力を伸ばす5つの授業技法2

W・ヒューワード、中野 良顯(通訳)

シンポジウム: 「特別支援教育はいま」

柘植 雅義(文部科学省)

W・ヒューワード、中野 良顯(司会)

照会先: 明治安田こころの健康財団講座係

〒171-0033 東京都豊島区高田 3-19-10

明治安田生命高田馬場第二ビル

TEL: 03-3986-7021

URL: <http://www.mykokoro.jp/>

## 研究会のご案内

### 中部行動分析学談話会

名古屋近辺在住の日本行動分析学会会員も増えたので、行動分析の実践や研究に関心を持つものが気軽に集まって情報交換ができればいいなということで、中部行動分析学談話会が発足されました。あまり堅苦しくなく気軽に参加できるけど、アカデミックな雰囲気は維持しようということで、この名称になりました。発起人として以下の方が参集して下さいました。場所は、愛知大学の車道校舎で、隔月開催の予定です。

愛知大学文学部心理学専攻教授 樋口義治

愛知医科大学付属病院リハビリテーション部  
千鳥司浩

愛知県立看護大学教授 鎌倉やよい (日本行動分析学会理事)

藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション  
学科教授 岡西哲夫

藤田保健衛生大学助教授 久保田 新

高田短期大学助教授 中野美雅

(株)ウイル エデュケート スクール 代表

取締役 石田 淳

第 1 回は 4 月 23 日(土)に愛知大学文学部の浅野俊夫が「ドロシー・ロー・ノルトの詩”子どもは親の鏡”(Children learn what they live)について」話題提供。

第 2 回は 6 月 11 日(土)ウイル エデュケート スクール社長の石田 淳氏が「リーダー、部下の育成法について」話題提供しました。また、会場には「資料テーブル」を設け、参加者が新刊書や論文などを展示できます。

次回第 3 回は 8 月 6 日(土)2 時から愛知大学車道校舎(K802 教室)(地下鉄桜通線車道駅 1 番出口から 1 分)で鎌倉やよい氏が「PCA (patient-controlled analgesia) 法による術後鎮痛と薬剤ボタン押し行動」について、話題提供する予定です。会は 5 時ぐらいで打ち切り、近くで懇親会をやるというスタイルがすでに定着しました。行動分析に関心のある方ならどなたでも歓迎します。

中部行動分析学談話会代表

愛知大学文学部心理学専攻 浅野 俊夫

## 自著を語る・新刊書案内

「行動の基礎 = 豊かな人間理解のために」

小野 浩一 著 培風館 2005 年 5 月 2300 円(税別)

ISBN 4563056960

小野 浩一

この本の特徴を、編集者は表紙カバー折り返しの袖文に「本書は行動分析学と学習心理学の知見を総合してまとめた“行動”ガイドブックである」と書いている。一方、私自身は、「まえがき」で、「本書は、行動とは何か、それはどのような仕組みで成り立っているのか、といった行動の基本的問題について、実証的なデータに基づいて解説したものである」と述べた。まとめると、この本は読者を行動の世界にいざなう「水先案内」の書であると言えるかもしれない。

とりわけ、初学者を行動の世界に案内するためには、一貫性のある体系だった構成を考え、それを実験事実と照合しながら具体的かつ「やさしく」「ていねい」に語りかける必要を感じた。そのためには、まず、私自身の行動についての考えと知識を整理しておかなければならなかった。

そのような試みの現れが、本書第 1 部「行動についての基礎知識：1 章～6 章」のうち、2

章から 6 章のタイトルである。すなわち、2 章：人間は生体である、3 章：行動は身体の変化である、4 章：身体変化の原因は環境にある、5 章：3 種類の環境がある、6 章：2 種類の行動がある、の 5 つである。これらの章の中では、予告としていくつかの「行動分析学の用語」を紹介した以外は、専門用語はなるべく使わないようにした。たとえば、3 種類の環境変化は、「生体の状態を変える環境変化(確立操作)」、「行動のきっかけとなる環境変化(誘発刺激・弁別刺激)」、「行動の後に生じる環境変化(強化・弱化)」という形で書いている。この第 1 部の後に、第 2 部「レスポナント行動：7 章～9 章」、第 3 部「オペラント行動：10 章～16 章」、第 4 部「オペラント行動研究の展開：17 章～20 章」が続く。ページ数でみると、約 340 ページのうち第 1 部が 100 ページ、第 2 部が 240 ページとなり、やはりこの本はオペラント行動を中心とした本であることが分かる。中でも 16 章「言語行動」が最大の 35 ページで、(1)言語行動の基本的

特徴、(2) 言語行動の獲得、(3) 言葉の「意味」と「理解」、(4) 日常言語行動の特徴、(5) 言語刺激による行動の制御、などの内容が書かれている。

今年、この本を学部の授業でも使っているが、心理学科の学生と一般の年輩者とは「分かりやすい」という部分が違うのが興味深い。全体として学生は第一部「行動についての基礎知識」が難しく、それ以降の具体的研究の部分は比較的良好に分かると言うのに対し、年輩者は、第

部は面白く読めたが、実験がでてくるとついていけない、という評価である。また、第6章で、レスポナント行動とオペラント行動の違いを、詳細な実例の表とその解説まで加えて「懇切丁寧」に説明したつもりであるが、初学者にはまだ難しいようだ。先日、法科大学院の行動分析学の授業で、「レスポナント行動」は起きてても犯罪にならないが、「オペラント行動」はしばしば犯罪になる、と説明したらなんとかが納得してもらえた。

### 「行動と学習の心理学 - 日常生活を理解する」

伊藤 正人 著 昭和堂 2005年4月 2400円(税別)

ISBN 4812204321

伊藤 正人

昨年の6月23日に朝日新聞「私の視点」欄に「まちづくり：人の行動心理まず考えて」と題する一文を寄稿しました。この一文の趣旨は、私たちの生活の中の様々な問題は、実は人の行動の理解が不十分な故に生じていることを指摘し、こうした問題の解決には、心理学、特に、学習心理学の研究が重要な役割を果たす可能性を一般読者に提起することでした。ここでは、日常生活における問題として、ニュータウンにける街路の作り方から、都市問題の一つになっている放置自転車問題、さらに介護分野におけるリハビリの問題など幅広い問題を取り上げました。このような問題提起の背景となる学習心理学の知見をまとめたものが、この4月に公刊した拙著「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」(昭和堂)です。

本書は、大学における心理学の講義用テキストとしてまとめたものですが、本書の内容を第一部(実験室の中の学習)と第二部(日常生活の中の学習)に分け、後者の日常生活との関連

を論じた2章を加えたことは、副題とともに、類書にない特徴であると自負しているところで。勿論、第2部で論じた問題の解釈には異論もあるかとは思いますが、学習に関する基礎研究と日常生活の諸問題を結びつけて考えてみようという試みは、学生の学習心理学を見る目(例えば、動物実験と自分の生活とは無関係という見方)を変えるものであってほしいという願いとともに、心理学の基礎研究に携わっている私にとって、いわば存在証明のような意味を持つのかもかもしれません。

学習心理学の知見と関係のある日常場面の出来事を映画や新聞記事その他から探し出すことは、時間もかかり、容易なことではありませんでしたが、私にとっては、結構楽しい時間でもありました。このような試みが、学生は勿論、一般読者の皆さんの学習心理学への見方を変え、また内容の理解を容易にするものとなったとしたら、著者として本懐といえるでしょう。

「インストラクショナルデザイン - 教師のためのルールブック」

島宗理 著 米田出版(産業図書) 2004年11月 2000円(税別)

ISBN 4946553193

島宗理

学校が嫌いだった。本はよく読む方だったし、成績も悪くはなかった。友だち付き合いも部活動も楽しかったけど、“先生”という存在がどうしても好きになれなかった。

美術の時間に「私の住みたい部屋」というテーマを与えられ、緑一色の部屋を描いたことがある。森に囲まれて過ごしたいという気持ちを表現したつもりだった。

ところが、先生(女性)から「ふざけてないで描き直しなさい!」と冷たい一言を浴びせられ、仁義なき戦いが勃発。最後には「美術の先生なんて芸術家になれなかった落ちこぼれでしょ」という禁じ手によって泣き崩した(嫌なガキでしょ)。

特殊学級から通級していた知的障害のある友だちをクラス全員の前でいじめていた先生もいた。ぼんやりした記憶だが、なぜか「かえるがなくなからかえる」と言いながら、その子のランドセルを窓から外に投げ出し、取りに行かせていた。この先生は学級会で裁判にかけ、先生からひいきされていた数人の女の子グループを除く全員で“有罪判決”を言い渡した(学級委員長としての最後の仕事だった)。

そんな自分が大学の教員になり、今では授業や研修で学校の先生に教える立場にいる。先生たちと一緒に仕事をするようになって、教師がおかれている環境もわかってきた。熱心な先生、優秀な先生、楽しい先生、尊敬できる先生にも恵まれて、幼い頃から続いていた対教師戦争には終止符を打ち、共に学び、共に進む、コラボ

レーション関係を築くようになった(ガキ時代の自分からすれば、まさに想定外の状況だ)。

本書は、学校や教育を良くしたいと思っている先生たちにむけた“インストラクショナルデザイン”の入門書だ。「どうすれば上手く教えられるか」という問いに、行動分析学から、でも行動分析学そのものにはできるだけ触れずに答えた。本書の前編にまとめた17の鉄則を実行すれば、スーパー教師が誕生する(はずである)。

e-Learningの急速な普及によって注目されている“インストラクショナルデザイン”の源の一つは、スキナーのティーチングマシンやプログラム学習にある。残念ながら、わが国で教育工学というと、パソコンや情報機器を授業で活用することのように誤解されがちだが、その本質は、学び手の行動を引き出し、強化する環境を整備していく、エンジニアリング的アプローチにある。スキナーが半世紀近く前に*The Technology of Teaching* (1968)で指摘し、その後、世界中で、何千人・何万人もの応用行動分析家がずっと続けてきた仕事である。日本の優秀な教師にできないわけではない。

対教師戦争には終止符を打ったと書いたが、それは個人的な怨念戦争の話。この本を出版してから読者から届くポジティブな感想メールは、すべて学校の教師以外の教え手から。身近な先生方からは「聞く耳、痛いです」という感想がほとんど。

学校や教育を良くしていくための平和的な戦いは、まだまだ続きそうです。

## 学会情報

## 常任理事会ヘッドライン 理事長 中野 良顯

### 1. 2005 年度常任理事会について

2005 年度の常任理事会は、これまでに 4 月 17 日、6 月 12 日の 2 回開催されました。今後も、7 月 17 日、7 月 29 日、10 月 2 日、10 月 23 日、11 月 20 日、1 月 29 日、3 月 26 日に開催する予定です。また 7 月 30 日（第 23 回年次大会期間中）には、総会を予定しております。是非ともご参加ください。

### 2. 会員数

2005 年 6 月 1 日現在の会員数は、695 名（一般 532 名、夫婦 7 名、学生 153 名、購読会員 3 名）です。まもなく 700 名に達します！！

### 3. 2005 年度会費納入のご案内

2005 年度の会費納入率は 2005 年 6 月 1 日現在、60.1%となっております。学会は、会員の皆様の会費によって支えられております。お振込みがまだの方は、早めをお願いいたします（一般会員 7000 円、学生会員 4000 円）。

郵便局：00120-2-352016

日本行動分析学会

なお、学生会員の方は、科目等履修生 / 聴講生 / 社会人学生であることを示す今年度の在学証明書 / 学生証のコピーを学会事務局宛てに郵

送か FAX でお送りください。

### 4. 機関誌の発行

「行動分析学研究」第 19 巻第 1 号、第 2 号を会員の皆様に送付いたしました。万一、まだお手元に届いていない場合は、事務局までご一報ください。

### 5. 第 3 回学会賞

第 3 回学会賞は、論文賞、実践賞ともに選考が進んでおります。常磐大学での年次大会期間中に行われる総会で、結果を皆様にご報告申し上げます。

### 6. 住所変更・お問い合わせ

学会事務局では、新入会員のお申し込みや会員の皆様の住所・連絡先変更などのご連絡を、電子メールか FAX でお受けいたしております。特に 9 月初旬の発行予定の会員名簿（3 年に 1 度発行）の作成を進めておりますので、先日お送りした会員情報をまだご返送いただいていない方は、至急お送りください（7 月下旬までしか間に合いません）。

メールは、j-aba.office@j-aba.jp、FAX は、03-3238-3658 までご連絡ください。

## 編集後記

近畿地方は 7 月 18 日に梅雨が明けましたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。さて、今回もニューズレターをお届け致します。今号は、7 月 29 日～31 日に水戸市の常磐大学で開催されます第 23 回年次大会直前号です。また、久しく企画紙面から遠ざかっておりました「自著を語る・新刊書紹介」のコーナーを用意致しました。ニューズレターの編集では、つ

いつい締め切りばかりが気になって新しい企画が用意できず、いつも発行後は内心忸怩たるものがありました。今回は著者の皆様のおかげをもちまして、3 冊取り上げることができました。次号 40 号は、10 月上旬に発行の予定です。今年の夏が、会員の皆様にとって楽しく実り多い夏となりますよう。（藤 健一）

### ニューズレター編集部よりお願い

ニューズレターには、個人情報記載されている場合があります。会員の皆様がこの二

ューズレターをご覧になった後、処分される場合は、その処分法について十分ご留意下さ

るようお願いいたします。

## J - A B A ニュース編集部より

書評、研究室紹介、施設・組織紹介、用語についての意見、学会に対する提案や批判、求人情報、イベントや企画の案内など、さまざまな記事を募集しています。原稿はテキストファイル形式で電子メールかフロッピー（DOS）で、下記のニュースレター編集部宛にお送りください。なお、ニュースレターに掲載された記事の著作権は、日本行動分析学会に帰属します。掲載された記事は、日本行動分析学会ホームページでの公開を原則としていますので、ホームページ上での公開を望ま

ない事項（例えば、電子メールアドレスなど）のある場合には、あわせてニュースレター編集部までご連絡下さい。

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1  
立命館大学文学部心理学研究室気付  
日本行動分析学会ニュースレター編集部  
藤 健一  
( e-mail: fuji@lt.ritsumei.ac.jp  
電話 075-466-3193)